

令和6年度（2024年度）

東京都立北特別支援学校

実践報告集



高等部生徒作品

目 次

1	巻頭言～これまでの研究をまとめるに当たって～	1
2	学校組織および研究の概要	2
3	肢体不自由教育部門の研究	
	（1）自立活動を主とする教育課程の研究「絵本&活動カード」について	11
	（2）知的障害を併せ有する児童・生徒の教育課程及び準ずる教育課程の研究 「はたらく／社会参加の力を高める授業」について	16
4	肢体不自由教育部門 訪問教育部の研究	20
5	病弱教育部門の研究	23
6	研究を終えて	29
7	参考文献	30
8	資料編	
	『絵本&活動カード』	
	・自立活動を主とする教育課程（小学部）	1
	・自立活動を主とする教育課程（中学部）	72
	・自立活動を主とする教育課程（高等部）	112
	『「ひとりでできる」力を高める授業カード』	
	・知的障害を併せ有する児童の教育課程／準ずる教育課程（小学部）	162
	・知的障害を併せ有する生徒の教育課程／準ずる教育課程（中学部）	167
	・知的障害を併せ有する生徒の教育課程／準ずる教育課程（高等部）	170
	『授業カード』	
	・訪問教育部	175

1 巻頭言

校長 小池 巳世

本校は、昭和38年に開校し、おかげさまで令和5年4月をもちまして、創立60周年を迎えました。都立肢体不自由養護学校として昭和38年に誕生して以来、都内や国内の肢体不自由教育の改善・充実に寄与してまいりました。現在は肢体不自由教育部門と病弱教育部門を併置した都立北特別支援学校として、さらなる発展に向けてあゆみを続けているところです。

今年度の研究活動は、これまでのまとめとして、それぞれの教育部門、教育課程等に応じ研究を進めてきました。昨年度は、中間まとめとして実践報告集を発刊し、今年度のまとめにつなげてきました。本校の研究活動の内容は先駆的ではなく、本校の教職員が日々の実践に役立つような内容をとっているため、他校の実践に役立つかどうかは心もとないところです。この「実践報告集」を読まれて、御意見や各校で取り組んでいる実践の情報をお寄せいただければ大変ありがたく存じます。

冒頭でも述べたとおり、本校は昨年度創立60周年を迎え、今年度は61年から続く歴史を作っていくこととなります。全国公開授業研究会を開催し、都内だけでなく全国の多くの皆様から御助言いただけることは、新たな一步を踏み出すにあたり大変意味のあることと感じています。児童・生徒のために教員の学びを継続し、さらに発展を続けられる学校を目指して、今後も実践を積み重ねてまいります。

最後になりましたが、研究を進めるにあたりましては、児童・生徒、各グループ等の状況に応じて御指導、御助言をいただいた東洋大学文学部教授 谷口明子先生、東京都就労支援アドバイザー 藤田誠先生、都立府中けやきの森学園指導教諭 田中美成先生、都立永福学園指導教諭 市宮環美先生、都立小平特別支援学校指導教諭 椎名久乃先生に心から感謝申し上げます。助言者の皆様の御指導や御助言は具体的で分かりやすく、次の授業や研究活動に生かしたいと教員に戻ったような気持ちになることが多く、私自身がそれぞれの協議会での講師の先生方の御助言などを伺うことを大変楽しみにしておりました。今後も変わらぬ御支援をお願いして校長からの挨拶といたします。

2 学校組織および研究概要

(1) 学校組織

本校は東京都北区にある都立特別支援学校で、東京都立北療育医療センターに隣接しており、都内では比較的規模の大きな特別支援学校である。本校には、肢体不自由教育部門と病弱教育部門の二つの部門が設置されている。

本校は肢体不自由養護学校として設置され、都立北療育園（現 東京都立北療育医療センター）や自宅に訪問教育を行いながら、病院での重度重複障害児への訪問指導へと広がり、東大医学部附属病院内にこだま分教室を設置するなど、教育が行き届かない子供たちの声を受けて、広がってきた学校となっている。平成 29 年に正式に部門として「病弱教育部門」が設置され、旧来よりも体制を強化して児童・生徒を受け入れられるようになった。病弱教育支援員が導入されたのも同年で、教員が訪問できない時でも学習をサポートすることも少しずつできるようになってきている。



学校教育目標

- 1 生きる意欲をもち、健康の維持・改善を図り、体力を養う。
- 2 学習・生活の基礎的な力を身に付け、判断力、表現力を養う。
- 3 ふれあいや体験を広げ、お互いを尊重しあい豊かな心を育てる。
- 4 地域や社会の一員として、ともに生きていく力を育てる。

全校の取り組み

部門や学部を超えて、全校でパラスポーツ（ポッチャ）に取り組み、年に1回、North Cupを開催しています。病弱教育部門の児童・生徒は、各病院からオンラインで参加し、本校の児童・生徒と対戦します。全校の児童・生徒が共に学び合う機会となっています。



肢体不自由教育部門



身体に障害のある小学部から高等部までの児童・生徒が、明るく元気に学んでいます。

- ① 複数担任による課題に応じた学習グループ別の学習形態で、一人一人の力を十分に伸ばす指導に重点をおいています。
- ② 障害による学習上又は、生活上の困難を克服するための「自立活動」の時間を特設し、個別の指導を行っています。自立活動担当教員が、学年・学習グループ担任と連携しながら指導しています。
- ③ 今と将来の生活を豊かにするため、家庭と共に、医療・福祉・労働・地域社会が一体となるネットワークの構築に取り組みます。

自立活動

特設自立活動の時間では、学習グループ担当教員と自立活動担当教員・外部専門家とが連携を取りながら一人一人の児童・生徒に合わせた指導を行っています。



自立活動「立位・上肢の活動」



自立活動「座位の保持・スイッチ操作」

小学部

図画工作「ピザ作り」



中学部

音楽「器楽演奏」



高等部

外国語活動「ALTによる授業」



訪問学級

様々な理由で通学が困難である児童・生徒に対し、訪問教育の制度があります。家庭や施設に教員が訪問してそれぞれの障害の状態に応じた学習指導を行います。



生活単元学習「茶道」

各学年の週時間割(例)

小学部1年生Aグループ [自立活動を主とする教育課程] (2・3学期)

	月	火	水	木	金
登校	学級の指導	学級の指導	学級の指導	学級の指導	学級の指導
	日常生活の指導	日常生活の指導	自立活動	日常生活の指導	日常生活の指導
	自立活動	国語・算数	日常生活の指導	音楽	図画・工作
	自立活動	自立活動	特別活動	自立活動	自立活動
	自立活動	自立活動	自立活動	自立活動	自立活動
	給食				
	日常生活の指導	自立活動	日常生活の指導	自立活動	日常生活の指導
	学級の指導	体育	学級の指導	生活単元学習	学級の指導
		日常生活の指導		日常生活の指導	
下校		学級の指導		学級の指導	

小学部高学年Bグループ [知的障害を併せ有する教育課程] (2・3学期/6年生)

	月	火	水	木	金
登校	学級の指導	学級の指導	学級の指導	学級の指導	学級の指導
	日常生活の指導	日常生活の指導	日常生活の指導	日常生活の指導	日常生活の指導
	国語・算数	自立活動	特別活動	国語・算数	国語・算数
	音楽	国語・算数	国語・算数	自立活動	体育
	日常生活の指導	日常生活の指導	日常生活の指導	日常生活の指導	日常生活の指導
	給食				
	自立活動	自立活動	日常生活の指導	自立活動	自立活動
	生活単元学習	図画工作	学級の指導	生活単元学習	北タイム
	日常生活の指導	日常生活の指導		日常生活の指導	日常生活の指導
下校		学級の指導		学級の指導	学級の指導

中学部Aグループ [自立活動を主とする教育課程]

	月	火	水	木	金
登校	学級の指導	学級の指導	学級の指導	学級の指導	学級の指導
	日常生活の指導	日常生活の指導	日常生活の指導	日常生活の指導	日常生活の指導
	自立活動	自立活動	自立活動	自立活動	自立活動
	特別活動	総合的な学習の時間	音楽	生活単元学習	自立活動
	自立活動	自立活動	自立活動	自立活動	自立活動
	給食				
	日常生活の指導	日常生活の指導	日常生活の指導	日常生活の指導	日常生活の指導
	自立活動	生活単元学習	国語・数学	保健体育	美術
	自立活動	自立活動	自立活動	自立活動	北タイム
	日常生活の指導	日常生活の指導	日常生活の指導	日常生活の指導	日常生活の指導
下校	学級の指導	学級の指導	学級の指導	学級の指導	学級の指導

高等部1年生Cグループ [準ずる教育課程] (2年次より進学重点類型・ 総合ビジネス類型に分かれます)

	月	火	水	木	金
登校	学級の指導	学級の指導	学級の指導	学級の指導	学級の指導
	数学A	英語コミュニケーション	数学I	数学I	科学と人間生活
	特別活動	英語コミュニケーション	数学I	英語コミュニケーション	科学と人間生活
	数学A	体育	自立活動	保健	体育
	給食				
	現代の国語	言語文化	産業社会と人間	現代の国語	言語文化
	総合的な探求の時間	歴史総合	芸術選択	家庭基礎	公共
	総合的な探求の時間	歴史総合	芸術選択	家庭基礎	公共
下校	学級の指導	学級の指導	学級の指導	学級の指導	学級の指導

※時程は教育課程ごとに細かく設定されています。こちらの時程は概略で表示させていただきました。

登下校時刻

(令和5年度)

登校
8:50

下校
I 便 / 13:45
(給食なしの日は11:45)
II 便 / 15:40

			月	火	水	木	金
小学部	1年	1学期	13:45	15:40	13:45	13:45	13:45
		2・3学期	13:45	15:40	13:45	15:40	13:45
	2年	通年	13:45	15:40	13:45	15:40	13:45
	3年	通年	15:40	15:40	13:45	15:40	13:45
小学部	4・5・6年	1学期	15:40	15:40	13:45	15:40	13:45
		2・3学期	15:40	15:40	13:45	15:40	15:40
中学部	全	通年	15:40	15:40	15:40	15:40	15:40
高等部	全	通年	15:40	15:40	15:40	15:40	15:40

児童・生徒数

令和5年度5月1日現在

学部	学年	小学部							中学部				高等部				合計
		1年	2年	3年	4年	5年	6年	小計	1年	2年	3年	小計	1年	2年	3年	小計	
児童・生徒数	普通学級	5	3	4	2	2	7	23	3	3	5	11	9	6	6	21	55
	重度・重複学級	3	3	7	2	4	4	23	5	11	2	18	6	11	3	20	61
	訪問		1	1		1	1	4	3	1	1	5		1	2	3	12
	合計	8	7	12	6	13	6	50	11	15	8	34	15	18	11	44	128

学習集団の編成

本校の教育活動は主に「学級」「学年」「学習グループ」という三つの学習集団を中心に進められています。この他に、学部単位や全校単位など、多様な集団を教育内容に応じて構成・編成しています。

	学 級	学 年	学習グループ
	学校における児童・生徒の基礎的な生活の集団	多様な実態の同じ学年の児童・生徒で構成された生活・学習の集団	学習課題別に編成された主に学習の集団
主なねらい	【普通学級】 ・学校生活の始まりや終わりを意識し、学校生活に見通しをもつ。 ・身近な友達を意識し、理解を深める。 【重度重複学級】 ・学校生活の始まりや終わりに気づき、生活リズムの安定を図る。	・様々な障害の実態をこえた同じ学年の仲間とのふれあいを通して、相互理解や協力といった人間関係の形成を図る。 ・仲間意識を高め、協力しあう等の社会性を培う。	・個々の発達課題に即した認知・認識の獲得や学力の向上、人と関わる力を育成する。 ・健康の保持や身体の動き、コミュニケーション等の充実を図り、心身の調和的発達の基盤を培う。
主な活動内容	・朝の活動 朝の会や健康観察等 ・帰りの活動 帰りの会や下校指導等	・給食 ・学年活動、HR ・学年遠足等 ・宿泊行事	・各教科等の学習 ・各教科等を含めた指導 (日常生活の指導、生活単元学習、作業学習等) ・校外学習等

学習グループ

児童・生徒一人一人の力を十分に伸ばすため、人と関わる力を中心とした発達段階別の学習グループを編成し、児童・生徒の実態に応じた指導を行っています。

	自立活動を主とする教育課程	知的障害を併せ有する児童・生徒の教育課程	準ずる教育課程
小学部	1年	学年内Aグループ	小1Cグループ
	2年		小2Cグループ
	3年		小3Cグループ
	4年		小4Cグループ
	5年		小5Cグループ
	6年		小6Cグループ
中学部	1年	中1・2・3年の縦割りAグループ	中1Cグループ
	2年		中2Cグループ
	3年		中3Cグループ
高等部	1年	高1・2・3年の縦割りAグループ	高1Cグループ
	2年		高2Cグループ*
	3年		高3Cグループ*

*高等部2年時から「進学重点類型」「総合ビジネス類型」を選択

会	交流
会	滝野川もみじ小交流会(高学年)
会	滝野川紅葉中交流会(各グループ)
会	帝京高交流会(全学年)

高等部卒業生の進路状況

(平成30年度～令和4年度：69名)

進路先	進学	就労	通所施設			訓練		入所施設		在宅・その他	合計
			生活介護 (重症心身)	生活介護	就労移行支援等	訓練校等	自立訓練	障害者支援施設	グループホーム		
人数	1	0	6	42	1	0	1	13	2	3	69

学校行事



文化祭 小学部発表



中学部修学旅行 舞浜方面(2泊3日)



高等部修学旅行 横浜方面(2泊3日)

副籍制度

副籍制度とは、共生社会の実現の一方策として、都立特別支援学校の小・中学部に在籍する児童・生徒が、居住する地域の区市町村立小・中学校(地域指定校)に副次的な籍を置き、直接的・間接的な交流を通じて、居住する地域とのつながりの維持、継続を図る東京都の制度です。

本校では、地域指定校と協働しながら、お互いの学校の児童・生徒にとって有意義な活動になるよう進めています。



病弱教育部門



入院中も学校教育を受けることが可能です。指定地域の病院へ訪問して教育を行う**訪問学級**と東大病院内に設置された**分教室**があります。

病院訪問学級

訪問学級は、教員が病院に向きます。主にベッドサイドでの1対1の個別授業ですが、病院内の学習室を使用して、授業を行うこともあります。



病院と学校をつないだ
オンライン授業風景

東大こだま分教室

東京大学医学部附属病院内病院内分教室を設置し、入院している児童・生徒が病室から出て分教室に通ってきます。

また、児童・生徒の体調や治療の状況に応じ、ベッドサイドでの授業も行っています。

●訪問対象の病院は、指定地域7区に所在する病院です。

指定地域：足立区・荒川区・板橋区・北区・豊島区・文京区・練馬区

訪問実績のある病院：

順天堂大学医学部附属順天堂医院・帝京大学医学部附属病院・日本医科大学付属病院・東京医科歯科大学病院・日本大学医学部附属板橋病院・東京女子医科大学附属足立医療センター・東京都立大塚病院・東京都立駒込病院・豊島病院・順天堂大学医学部附属練馬病院・成増厚生病院 他

〈病院や入院前の学校との連携〉

- 1 授業前や定例カンファレンスにて病棟スタッフと、体調や授業での配慮事項を確認しています。
- 2 入院前に通っていた学校と学習進度、進学、進路など、連携を取りながら進めています。
- 3 病院、医師、看護師の指導のもと、感染症対策に取り組んでいます。

〈年間予定〉

始業式・終業式
オンライン活動
(芸術鑑賞・工場見学 他)
期末テスト(中学生・高校生)
文化祭展示

(2) 研究の概要

① 肢体不自由教育部門

ア 研究主題

● 自立活動を主とする教育課程

『国語・数学（算数）の「生活年齢に沿った題材」と「児童・生徒に応じた指導内容」の整理』

● 知的障害を併せ有する児童・生徒の教育課程及び準ずる教育課程

『卒業後の社会参加を見据えた「ひとりのできる」を目指した指導の実践』

● 在宅訪問教育

『在宅訪問教育における効果的な実践の蓄積・継承と授業の改善』

イ 研究の背景

『国語・数学（算数）の「生活年齢に沿った題材」と「児童・生徒に応じた指導内容」の整理』の研究

平成31年度からの3年間は、『生活年齢に応じた国語・数学（算数）の絵本を活用した授業』というテーマで、絵本配当表を整備し、全校の教員で授業実践を行いながら、「絵本&活動カード」を記録し、事例を蓄積し、全校の教員が閲覧できるように整備した。研究を始めたころは、実践上の課題として、中学生や高校生に適した題材の選定に関して課題があり、また自立活動を主とする教育課程や知的障害を併せ有する児童・生徒の教育課程の国語・数学（算数）では、一般的に中学生や高校生に相応しい題材といわれる文学作品や古典作品などの内容が難しく、発達がゆっくりである児童・生徒が学ぶには適していないのではないかという先入観もあった。しかし、外部の助言者や保護者から「中学生や高校生に『にじいろのさかな』や『はらぺこあおむし』が題材でよいのか」という問題提起や、保護者から「学校にいるうちに子供の世界を広げるように取り組んでほしい」という要望があった。また、若手教員からも「発達が初期の中学部生徒や高等部生徒に、何をどのように教えればよいのか」という問いに対して、答えることが難しい状況があった。そのため、学校全体で国語・数学（算数）について、「何で学ぶか」を系統的に配置する研究に取り組んだ。

令和4年度からは、『国語・数学（算数）の「生活年齢に沿った題材」と「児童・生徒に応じた指導内容」の整理』というテーマで、過去3年間で蓄積した「絵本&活動カード」を活用した授業作りを実践することで、現在の児童・生徒の実態に合わせた内容に刷新した授業を実践したり、授業実践の種類を増やしていったりすることとした。また、蓄積した「絵本&活動カード」を参考にした時の活用のしやすさや分かりやすさ、活用しにくい部分、改善できそうな部分などを評価していく研究に取り組むこととした。

『卒業後の社会参加を見据えた「ひとりのできる」を目指した指導の実践』の研究

令和4年度は知的障害を併せ有する児童・生徒の教育課程と準ずる教育課程の縦割り班を併せ、ICTの活用を主題に研究を行った。研究の過程で、アクセシビリティを合わせればすぐに活用できるわけではなく、そこから児童・生徒が自分の運動障害に向き合って、操作に必要な動きの速さや範囲を調整して、最終的に使うことができるようになるというプロセスがあることが明らかになった。また、デジタル機器に強い教員とそうでない教員がいる中で、全体のスキルの底上げにつながるというよりは、むしろ差が拡大していく縦割り班の状態も見られたため、研究を続けていくことは難しい状況となった。

そこで、令和5年度は新たに本校の進路指導の課題を研究で考える主題に変更した。本校は長らく高等部卒業後の進路が「生活介護事業所のみ」の状態が続いていたため、就労継続支援A型事業所や就労継続支援B型事業所での就労を目指す生徒、企業就労を目指す生徒の指導の蓄積がなくなっていた。そこで、「はたらく／社会参加する力を高める授業づくり」をテーマにして、就労継続支援B型事業所の見学や特例子会社の見学を通して働くためにどんな力が必要なのかを考えたり、卒業後に必要な力から逆算するトップダウン型思考を始めたりした。しかし、研究を続けていく中で、はたらく力を高めるためには、授業や日常生活の中で「自分でできる」「仕事がしたい」「働いて賃金を稼ぎ、趣味を楽しみたい」などの社会参加をしていくための意欲やモチベーションを育てる必要があることが分かった。そこで、令和6年度は、前年度のテーマを残しつつも、その土台となる意欲を育てるための「ひとりでできる」実践について検討していくという研究主題を設定とした。本研究では、児童・生徒が学校卒業後、社会の中で自立し、社会参加しながら生活を送ることを目指すため、「ひとりでできる」を目指した指導の実践を共有し、「ひとりでできる」とはどのような状態を目指したらよいか、その取り組みをすることで、児童・生徒の社会参加に向けた意欲やモチベーションをどのように育てていくことができるのかを検討していくこととした。

『在宅訪問教育における効果的な実践の蓄積・継承と授業の改善』の研究

令和4年は、新型コロナウイルス感染症の流行により、オンラインでの授業を中心に行っていた。授業だけでなく、学校行事についてもZoomやTeamsを活用し、対面だけではない授業の可能性も見出した。令和5年度からは、訪問教育独自の課題である「引継ぎの難しさ」を克服すべく、「授業カード」の様式を作成し、授業実践の改善と蓄積を進めている。訪問教育の経験のない教員にとって、児童・生徒の自宅での授業はイメージがつかみにくいことは長年の課題であった。一般に訪問教育では教材は全て児童・生徒の自宅に持ち込むため、何をどうやって持っていくのか、大きい教材教具は何に代替するのか、自宅のベッドサイドではどのような制約があり、その制約をクリアするためにどのようなアイデアがあるのかについて、授業カードに明記していくことで、訪問教育の特徴的な授業をイメージし、補助具や教具などの準備に役立てていく研究に取り組むこととした。

②病弱教育部門の研究

学習の時間や環境に制限のある入院中の病弱児に対する指導の工夫は、「足りないものやできないことを補う」という発想になりがちである。もちろんそれも学習を進める上で必要なことであるが、現在の環境下でどのようにすれば子どもたちが生き生きと学ぶことができるのかという視点も大切である。個別指導であることを病弱教育の強みととらえた時、どうすれば「個別最適な学び」を提供できるのか、研究を進めることにした。入院中である子どもたちの学習環境をポジティブにとらえ、手掛かりにするのは子どもの長所である。ここから以下のテーマが生まれた。

～ 子供の長所を手がかりに、生き生きとした学びを引き出す病弱教育の在り方 ～

今年度は現テーマでの三か年のまとめの年として二つの目標を定めた。

- ① 病弱教育部門の教職員の一人一人が取り組む研究
- ② 全国研究会で発表することで、外部に発信し、内部に還元することができる研究

この目標を実現するために、一人1枚の研究ポスターの作成を行うこととした。

【研究ポスター】

研究テーマ：子供の長所を伸ばし、生き生きとした学びを引き出す病弱教育の在り方

病弱教育部門 東大こだま分教室

児童・生徒について	指導目標
1 チーム分析と共有	2 手だてと方向性 <手立て①> <手立て②> <手立て③> <方向性>
4 変容	3 授業実践 ① ② <取組> ① ②
5 まとめ	

(図) 研究ポスターのテンプレート

3 肢体不自由教育部門の研究

(1) 自立活動を主とする教育課程の研究

自立活動を主とする教育課程は平成31年～令和3年にかけて、『生活年齢に応じた国語・数学（算数）の絵本を活用した授業』というテーマで研究に取り組み、絵本題材一覧（図2）を作成し、絵本&活動カードの蓄積を行ったことを受け、令和4～6年度は『国語・数学（算数）の「生活年齢に沿った題材」と「児童・生徒に応じた指導内容」の整理』というテーマで研究を行うこととなった。蓄積してきた絵本&活動カード（図1）を活用していくこと、また絵本&活動カードを改善していくことが目的である。

令和6年度は、校内の研究日に絵本&活動カードが掲載されている令和5年度の実践報告集を各学習グループに配布し、教員が絵本&活動カードに目を通す機会を増やした。校内の教員が絵本&活動カードを身近に感じ、「困った時のお助けカードのような立ち位置になる＝活用している」ことを狙いとしている。また、目を通すだけでなく、①絵本&活動カードに書かれている目標や活動内容が、学習指導要領のどの項目にあたるか。②絵本&活動カードを、自分が所属するグループの学習に参考にする場合、どのような工夫をするかといった視点で、グループ内で協議した。

絵本&活動カードの改善については、自立活動を主とする教育課程の学習に携わった教員を対象に、絵本&活動カードに対するアンケートをとり、その結果を見て検討することとした。アンケートの内容は以下（図3）のとおりである。

【『絵本&活動カード』の概要】

『絵本&活動カード』は、その題材（絵本）でどのような授業を行うことができたのかが、一目で分かるように様式を作成した。詳しく分かること（情報量）と読みやすさ（必要な時間）、どちらか片方を優先すると、もう片方へマイナスに働く関係であるが、この様式では、読みやすさ（必要な時間）に重点を置き、情報量を極限まで削りながら、ある程度経験のある教員が実際の授業をイメージしやすいようにすることを意図している。

1枚目のスライドでは、絵本、本時のねらい、実態（学習到達度チェックリスト（慶應義塾大学出版会）の結果）、学習指導要領との関連、本時の展開が記されている。児童・生徒の実態については、様々な尺度があるが、スコアが月齢を表していて使う尺度が異なっても共有しやすいことを考慮して「学習到達度チェックリスト」を使用した。本時の展開の中に緑字で書いてあるものは、本校の『キャリア教育流れ表』の項目とどの関連が記されている。

2枚目のスライドでは、具体的な教材の写真と使い方について記載されている。教材の写真と使い方の説明があれば、ある程度経験のある教員は授業の流れを本時の展開と併せて推定できるのではないかと考えている。

小学部3年 自立活動を主とする教育課程「ねずみくんのチョコキ」		書き 組紙
ねらい ・言葉のリズムを楽しみ、読み聞かせに注目する。 ・「ねえねえ(肩叩き)」「貸して」など、自分なりの表現でやり取りできる。 ・大小の違いに興味をもつ。		教材
	学習活動	手立て/留意点
導入	○挨拶 ○今日の活動の確認	・絵表示で流れを分かりやすくする。
展開①	○言葉の学習「み」のつく言葉 ・「み」のつく言葉を知り、「み」の発声をしたり、口を開いたりする。	・見やすい位置でイラストを提示する。 ・児童によってはマイクを使って発声を促す。
展開②	○「ねずみくんのチョコキ」の読み聞かせを聞く。パネルで登場人物を確認する。 ○やり取り遊び(キャリア②③④) ・ねずみくんの小さいチョコキ、ぞうくんの大きいチョコキを借りる。 ・「ねえねえ(肩叩き)」「貸して」を表出する。 ・小さい、大きい言葉を確認する。 ・「おおきなたいこ ちいさなたいこ」のダンスをする。	・抑揚をつけた話し方で、子ども達の興味をひく。 ・スライドの間に黒いスライドを挟み、ページの変化を分かりやすくし、注目を促す。 ・登場人物をパネルに1輪にする。
まとめ	○本時の活動を振り返る ・取り組んだ活動の確認 ・次回の予告 ○挨拶	・次回への期待感をわたせるように話す。

(図1) 絵本&活動カード (表)

活動の教材と使い方

書き
組紙
活動
組紙




- ・大型テレビで読み聞かせをする。スライドの間に一面黒のスライドを挟み、ページの変化を分かりやすくし、注目を促す。
- ・ねずみくんやぞうくんに「ねえねえ(肩叩き)」「貸して」とチョコキを借りるやり取りをする。大小のチョコキを実際に着てみる。

(裏)

絵本題材一覧

230404版

【小学部】各学年ごと

小1 3年間 共通	ノタンぶらんこのせて① おべんとうパス だるまさんシリーズ ぞうくんのさんぽ さつまのおいも げつようびはなにたべる？
-----------------	--

小2 3年間 共通	桃太郎 大きなかぶ② えんそくパス わたしのワンピース はらぺこあおむし おかいものおかいもの 浦島太郎
-----------------	--

小3 3年間 共通	ねずみくんのチョッキ③ でんしゃにのって パパ お月さまとって にじいろのさかな かばくんのおかいもの 花さかじい 赤ずきん もりのおふる
-----------------	--

小4 3年間 共通	ぐりとぐら④ スイミー ゆきのひのゆうびん屋さん からすのパン屋さん へんしんトンネル かちかちやま おむすびころころ
-----------------	---

小5 3年間 共通	14ひきのピクニック⑤ 3びきやぎのがらがらどん でんしゃでいこう でんしゃでかえろ う おだんごばん 3びきのくま かさじぞう(かさこじぞう) もりのともだち
-----------------	---

小6 3年間 共通	めつきらもつきらどおんどん⑥ きょだいなきょだいな てぶくろ デパートいきタイ ちからたらう 北風と太陽
-----------------	---

【中学部】※3か年ごと

第一期 平成31 年 令和4 年	わらしべ長者 ブレーメンのおんがくたい おむすびころりん こんとあき 11びきのねこ ふしぎなふしぎなまほうの木 ルイのうちうりょこう
------------------------------	---

第二期 令和2 年 令和5 年	不思議の国のアリス 三枚のお札 たのきゅう すてきな三にんぐみ おじさんのかさ だいくとおにろく かえるをのんだととさん たいこうちたらう ちよっとだけまいご
-----------------------------	---

第三期 令和3 年 令和6 年	アリババと40人の盗賊 アリとキリギリス 雪女 おてがみ ろくべえまってるよ じゅげむ ことりをすきになった山 ジャックと豆の木
-----------------------------	---

【高等部】※3か年ごと

第一期 平成31 年 令和4 年	手袋を買いに ごんぎつね 青い鳥 スーホの白い馬 アレクサンダとぜんまいねずみ かぐや姫(竹取物語) かえるの平家物語 銀河鉄道の夜 夢十夜(夏目漱石) しにがみさん(教育画劇)
------------------------------	--

第二期 令和2 年 令和5 年	あめ玉(新見南吉) 春はあけぼの(枕草子) 長ぐつをはいたねこ(欧州グリム童話) おにたのぼうし いなばのしろうさぎ(神話) 落語 時そば 蜘蛛の糸(芥川龍之介) ほしになったりゅうのきば(中国) おおきなもののすきなおうさま がまの油 あなた かたつむり ろくべえまってるよ みずとはなんじゃ
-----------------------------	--

第三期 令和3 年 令和6 年	セロ弾きのゴーシュ 注文の多い料理店 奥の細道 くるみ割り人形 西遊記 どんぐりと山猫 ヤンメイズとりゅう チャーリーとチョコレート工場 古典「鼠の婿取り」(ねずみの嫁入り) 附子(兄の餡くいたる事)
-----------------------------	---

(図2) 絵本題材一覧

自立グループ 研究アンケート

絵本活動カードについてご回答をお願いいたします。

所属について

1. 氏名 *

北 太郎

2. 所属 *

小学部

中学部

高等部

3. グループ名 *

小学部自立グループ

自立グループ 研究アンケート

絵本活動カードについてご回答をお願いいたします。

4. 過去3年間で、国語・算数（数学）を担当していましたか。 *

はい

いいえ

5. 過去の絵本活動カードの内容を参考にしましたか。 *

はい

いいえ

6. 過去の絵本活動カードをどのように参考にされましたか。

例：教えたい内容（学習指導要領の内容）と一致するものがあつたので、授業構成を検討する際に参考にした。教材作りの参考にした。など

回答を入力してください

7. 絵本活動カードの改善点について教えてください。

例：あつた方がよい項目、いらぬ項目など

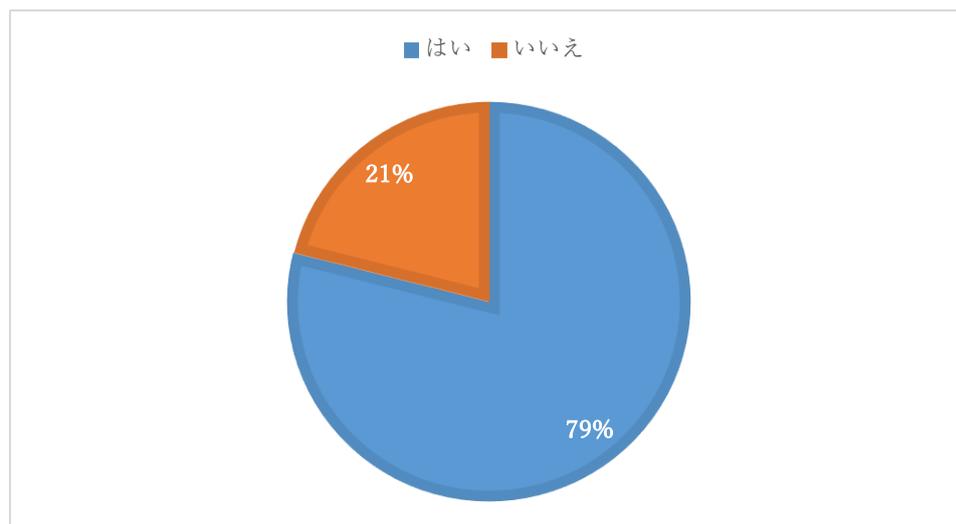
回答を入力してください

(図3) 絵本&活動カードに関するアンケート

令和6年度の取組と今後の課題

絵本&活動カードに関するアンケートの結果から以下のようなことが分かった。令和6年度の研究を終え、絵本&活用カードがより身近なものとなり、授業の参考にして授業づくりを進めるようになってきた。年度当初は若手教員や異校種から異動してきた教員から「どんな教材を使って、どんな授業をしたら良いか分からない。」「児童・生徒の生活年齢に合った題材・活動とは、どんなものか?」という声があったが、絵本&活動カードの活用が広まるにつれ、困り感のある教員が減った印象がある。また、絵本&活動カードが浸透したことにより、「教材の紹介をもっと増やしてほしい。」「他の教科でも同様の取組をしてほしい。」等の要望や意見があがり、今後の課題となると考える。

<質問1 絵本&活動カードを参考にしましたか?>



<質問2 過去の絵本&活動カードをどのように参考にされましたか?>

- ・教材作りの参考にした。(7)
- ・他のグループがどのような教材を用いて授業をしているのか?参考にさせていただきました。
- ・どんな学習を、どのように指導していたのか、参考にした。
- ・どのような絵本を教材として扱ったのかを参考にした。
- ・絵本の選定に悩んだので、過去にどのような絵本を使用して指導を行っているか参考にしました。
- ・授業設計
- ・そもそもの授業が分からなかったため、傾向を掴みたかった。”
- ・授業の展開や教材の工夫について参考にした。
- ・絵本カードにのっている体験的活動をアレンジして取り入れようとした。”
- ・ねらいを参考にした。
- ・担当児童の実態に合う内容があるかどうか。ヒントになるものがあるかどうか等。
- ・取り扱う題材や、教えたい内容の参考になった。
- ・授業例としての活用。
- ・まだ経験が少ないため、授業イメージやアイデアを得るために活用できると思った。
- ・何をねらいにするのか、そのねらいを到達するための学習内容を参考にすることができました。
- ・授業の流れを考えたり、教材づくりの参考にしたりできると思った
- ・教えたい内容を検討する際に、活用する絵本の内容を踏まえて、当該生徒の興味・関心に合ったものを考えていく上で参考になると思いました。要点が表記されていてわかりやすいです。
- ・学習させたい内容の教え方や方法
- ・現在、国語・算数の授業を行っている先生が絵本活用カードを活用して授業を行っているの

で分かりやすい。

- 扱う教材など、どのようなアプローチで使えばいいのか理解しやすく、活動に取り組みやすい。
- 授業に参考になるポイントはつかんでいると思う。
- 絵本活動カードを参考にイメージと授業の展開の見通しが立てやすいと思った。教材も写真があり、準備しやすいと思った。
- 教材、授業の内容や展開
- 使用した教材や道具を写真ですべて見れるので、教材研究の参考にしたい。
- 国数が初めて担当になったとしても絵本活動カードを頼りに授業を作成できると感じた。
- グループごとに教材例が分かれており、また進め方も具体的でとても分かりやすく参考にしやすかった。
- 題材としてこういう使い方ができるとわかるのはとても良い。
- 学年で被らないようように（系統的に）取り組める指針となるのは良い。”
授業づくりはしていないが、絵本活用カードは、教科書のように使えて良いと思う。特に経験が少ない教員にとっては有効だし、ベテランの教員にとっても参考資料として事業を組み立てる時間短縮になるし、発展を考える為の基礎資料となる。
- 授業のネタ探しにはなるかとは思いました。
- 話の内容に合った具体的な活動の取り組み方や子供たちへの、支援方法などを知ることができた。

<質問3 絵本&活動カードの改善点を教えてください。>

- 教材の欄をもっと多くしてほしい。
- 国語、算数（数学）の学習指導要領の内容の項目ごとにどんな絵本が扱えるかを加えてほしい。
- 今のままで良い。さらに詳しく知りたいときは、直接聞けば良いと思う。
- 学習指導要領の内容と学習到達度チェックリストはいらなと思います。
- カードだけでなく、使用した教材（データやグッズなど）もまとめて引継ぎすると、次年度の教材準備が楽になると思います。
- 絵本をもとに、生徒の活動内容と教材がわかれば十分だと思います。
- ぱっと見て、視覚的にすぐわかるカードがよいです。”
- やりやすい教材はたくさん載ってるけど、授業に使いつらいものは殆ど無いため、参考にすると、内容や教材が限られてしまう。
- チェックリストの項目はいらなと思います。
- 絵本活動カードは参考になる。他教科でも作成するのも意味があると思う

（２）知的障害を併せ有する児童・生徒の教育課程／準ずる教育課程（肢体不自由教育部門）

①研究テーマの設定理由

本校の児童・生徒が学校を卒業した後、社会の中で自立し、積極的に社会参加しながら生活を送ることを目指すためには、「ひとりのできる」ことを考えることが必要不可欠である。これは、児童・生徒が「できた」「頑張った」という達成感を味わい、「ひとりのできる」ことの楽しさややりがいを感じることで、自己肯定感の向上や社会参加への意欲を高めることにつながる。

本校では、進路指導が担任任せになっている現状があり、小学部・中学部・高等部の系統性を意識した授業づくりが十分に行われていないという課題がある。これにより、児童・生徒が卒業後に直面する社会生活への準備が不十分であると感じている。さらに、肢体不自由特別支援学校における進路指導の課題として、以下の点が挙げられる。

まず一つは、進路指導の一貫性の欠如があげられる。各学部間での連携が不足しており、児童・生徒が段階的にスキルを習得するための体系的な指導が行われていない。次に児童・生徒の社会参加の機会の不足である。学校内外での社会参加の機会が限られており、実際の社会生活で必要となるスキルを実践的に学ぶ場が少ない。

これらの課題を解決するために、本研究では「ひとりのできる」を目指した指導の実践を通じて、児童・生徒が卒業後に自立し、社会参加できる力を身に付けることを目指す。具体的には、中学部の作業学習の実践と『「ひとりのできる」力を高める授業カード』の作成という二つの取組を進めてきた。中学部の作業学習の実践では、児童・生徒が実際の作業を通じて「ひとりのできる」力を身に付けることを目指し、実践報告とその共有を行うことで、他の教員や学校全体での指導の質を向上させることを目的としている。また、『「ひとりのできる」力を高める授業カード』の作成は、児童・生徒一人一人の成長を支援するための具体的な指導方法や、実践を共有し、より効果的な指導を実現することを目指している。

このような取組を通じて、児童・生徒が「ひとりのできる」ことの楽しさややりがいを感じながら、自立した社会生活を送るための基盤を築いていけるようにするために、本研究テーマを設定した。

②研究の進め方

月に1回、小学部・中学部・高等部の知的障害を併せ有する児童・生徒の教育課程と準ずる教育課程で指導している教員による縦割りの授業研究会を実施してきた。この研究会では、卒業後の社会参加を見据えた「ひとりのできる」を目指した指導の実践について議論し、授業の見直しと改善を行うことを目的とした。その中で、児童・生徒が「できた」「頑張った」と達成感を得られること、また「ひとりのできる」ことの楽しさややりがいを感じ、意欲を高めることを目指した授業作りを行ってきた。具体的には、指導の工夫や環境整備の工夫、言葉掛けや教職員の関わり方の工夫などを示し、『「ひとりのできる」力を高める授業カード』や指導案を作成し授業を行い、授業の一部分をタブレット端末等で撮影し、授業の様子を記録する。縦割りの授業研究会の際にはそれぞれが授業で撮影したビデオを用いて、授業の見直しと情報共有を行い、指導方法の改善点等について検討した。

③授業実践から～中学部の作業学習を通して得られたこと～

本研究を進めるために、中学部の作業学習『紙漉き』の研究授業を一年間通して協議を進めてきた。この授業では、生徒の意欲を育てることを重視している。また、紙漉きの工程を通じて、

成功体験を積み重ねることで自己肯定感を高めている。例えば、紙の原料を準備し、漉き上げる過程を一つ一つ体験させることで、達成感を味わわせる工夫をしている。また、勤労観・職業観の育成にも力を入れている。紙漉きの授業では、役割分担を行い、協力して作業を進めることで、働くことの意義を実感できるようにしている。さらに、完成した紙を使って製品を作り、教職員に向けて配布することで、やりがいや達成感を感じさせる取組も行っている。

本研究では、東京都就労支援アドバイザーと都立知的障害特別支援学校の指導教諭の助言を受け、「ひとりでできる」を目指す教育課程の整備と教材開発を進めている。具体的には、生徒が自分一人で担当できるような工程整備や、補助具・ジグの工夫、生徒の生活全般の見直しを行っている。これにより、生徒が達成感を得られるようにすることを意図している。また、教員の接し方についても、直ぐに指示を出さず、生徒が自分で考える時間を取ることや、本当に解決できない時には教員に依頼できるようにすることが重要であると助言をいただいた。

以上の助言を踏まえ、授業改善を図り、生徒の自立と成長を支援する取組を進めてきた。研究授業を通して、助言者の先生よりいただいた講評を以下にまとめる。

・工程の理解と役割の遂行

生徒たちは工程を理解し、確実に役割を果たしていた。自分の仕事の意味を理解し、役割を果たしていて、例えば、ある生徒は牛乳パックに線を引き、その後にチェックを入れることで、次の人が見やすいような工夫をしていた。

・準備・後片付けの参加度

生徒たちがどの程度準備や後片付けに参加しているかを見ていると、ある生徒はエプロンを自分で付けるなど、自立した行動が見られた。

・高度な目標の達成度

「必要だと思う工程を考える」という高いレベルの目標に対して、生徒たちがどの程度まで達成できるかを予め考えておく。その上で実施した後に、「どの工程が滞っていたか。」「それは、なぜか。」「どうすれば目標数を達成できるようになるだろうか。」などを振り返り生徒自身で考えられるようにする。

・環境設定の改善

柵に白い紙を貼って不要な刺激を与えないようにするなど、作業室の環境設定が工夫されており、生徒たちが自分の担当している工程(役割)を分かりやすくするための策が講じられていた。また、作業の基本として、用具等を左から右に提示する、身体の手前で操作・作業するなどの指導が行われていた。さらには良品不良品の判断や作業スペースを汚さないこと、次の工程の担当者とのコミュニケーションなどが重視されていた。

・もう一段上の目標～今後の課題

仕事の全工程の理解を促し、材料入手から販売して金銭を得るといった仕事の全工程を理解できるように工夫が必要である。作製した製品の販売会のイメージをもち、完成品を誰に買ってもらいたいかを考えることで、人間関係の理解と拡大を図ることも重要である。

さらに、完成品の品評や他校や施設との比較、販売方法の開拓など、次に考えられる課題を設定することも考える。原材料の仕入れ・生産・販売の一連の流れを意識できるようにすること、障害の程度と特性によって作業学習の素材を変更するなどの工夫をすることもよい。

④「ひとりでする」力を高める授業カードの開発

縦割りの授業研究会で、対象授業の授業改善を検討する他に、一人一事例、実践を授業カードにまとめた。この様式では、左半分が授業の目標や基本的な流れを説明し、右側に「ひとりでする」に関連する力を伸ばすために行った工夫を書くようにした。研究協議会の中で確認された「どの教科・領域でも、関連した力をつけること」、「肢体不自由特別支援学校では、教職員の数が多いので手を出し過ぎているところがないか点検が必要なこと」「手を出さず、子供たちが分かる、できる工夫をしていくことが重要であること」を実践に反映させた。

「ひとりでする」力を高めるための授業カードを活用することで、教員が指導方法を工夫したり、学習環境を整えたりすることを意識するようになった。また、校内授業研究会の中で、教具の改善点についてや、より効果的な指導方法を見つけ出すための意見交換が活発に行われた。さらに教員は、児童・生徒が工程の流れを理解しやすいように環境を設定することの重要性を再認識することもでき、配置や視覚的なサポートを工夫することで、児童・生徒のやる気や集中力を高めることにつながった。

今後、実践が積み上がっていく過程で、「ひとりでする」の考え方や実践への落とし込み方について、さらに深めていきたい。

学部 グループ 教科・領域：

単元名：

本時の目標
 ＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
 ＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊【知識・技能】
 ＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
 ＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊【思考・判断・表現】
 ＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
 ＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊【主体的】

【ひとりでする！につながる工夫】

	本時の展開	配慮事項
導入	・あいさつ ・準備体操	・隊形に開く際は、自分の印がついたコーンを置いて、場所を確認できるようにした。
	○走る力を高める ・自分で目標（走る距離）を決めて、周回走に取り組む。	・目標はシールで通数を示し、それをはがすことで達成を確認できるようにした。
展開	○ボールをコントロールする力を高める ・ボールかごから、ボールをとって決められたゴールにシュートする。	・ゴールに自分のマークをはって、目印とすることで指示がなくても自分でできるようにした。
	○学びをふりかえる。 ・キーワードを思い出し、ホワイトボードに貼る。	・カードを裏返し、思い出した順に開けることで、



・活動の隊形を図で示して、自分で移動するように促すようにした。図では理解できない児童には、「自分の印コーン」を置いて、コーンを探すように促した。就労後の「自分の持ち場が分かり、移動すること」に関する力の育成を意識した。



・目標カードをつかって、自分で目標の難易度を決められるようにした。また、カードは前にカゴから取り、前のカゴに自分で戻すようにした。就労後の「日誌の記入や取扱い」に関する力の育成を意識した。

・目標カードをつかって、自分で目標の難易度を決められるようにした。また、カードは前にカゴから取り、前のカゴに自分で戻すようにした。就労後の「日誌の記入や取扱い」に関する力の育成を意識した。

(図1)「ひとりでする」力を高める授業カード

⑤研究の成果とまとめ～今後に向けて

本研究である『卒業後の社会参加を見据えた「ひとりでする」を目指した指導の実践』を通して、以下の三つの観点から、教育課程の充実を図ることが重要であることを再確認することができた。

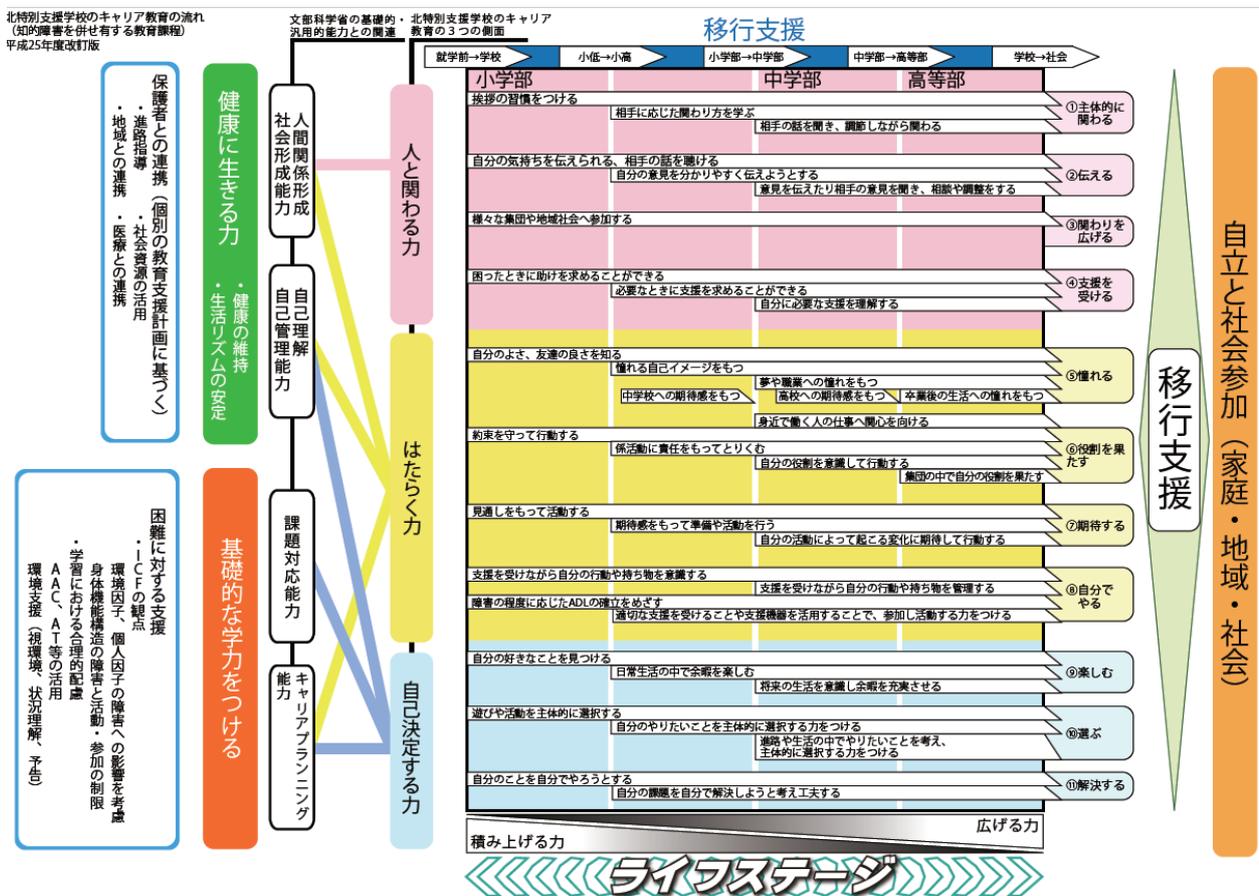
まず、「ひとりでする」の土台となる「意欲」を育てることに着目した授業作りである。児童・生徒が自らの力で課題に取り組む意欲をもつことは、自己肯定感の向上や将来的な自立につながる。そのためには、成功体験を積み重ねることが重要であり、教員は児童・生徒の興味や関心を引き出す工夫を凝らした授業を展開する必要がある。例えば、日常生活に密着した活動を取

り入れることで、学習内容が実生活と結び付き、意欲を引き出すことができる。

次に、生活年齢や発達段階、学習・生活経験に応じた勤労観・職業観の育成である。児童・生徒が将来の社会参加を見据えた指導を受けることで、働くことの意義や職業に対する理解が深まる。具体的には、職場見学や職業体験を通じて、実際の労働環境を知る機会を提供することが有効である。また、学校内での役割分担や責任をもたせる活動を通じて、勤労の意義を実感させることも重要だと考える。

最後に、多様な進路指導を小学部から高等部まで一貫して実践することである。児童・生徒の将来を見据えた進路指導は、早期からの計画的な支援が求められる。小学部では、基礎的な生活習慣や社会性の育成を重視し、中学部では、自己理解や職業理解を深める活動を行う。高等部では、具体的な職業スキルの習得や就労支援を行い、卒業後の社会参加を支援する。これにより、児童・生徒が自らの進路を主体的に選択し、将来に向けた目標をもつことができるようになる。

本校では『キャリア教育流れ表』を作成し、学校生活支援シート（個別教育支援計画）の作成に生かしている。『キャリア教育の流れ表』に基づき、各学部段階で児童・生徒に身に付けさせたい力を明確にし、『「ひとりでできる」力を高める授業カード』にも反映させることで、小学部・中学部・高等部の系統性を意識した実践を積み重ねていくことが今後の課題である。



(図2) 「キャリア教育流れ表」

4 肢体不自由教育部門訪問教育部の研究

(1) 昨年度からの経過と今年度の研究の流れ

昨年度の研究では、在宅訪問の授業を初めて行う教員が、特徴的な授業形態を知ること、各指導を教員同士で共通理解することを目的とし、様々な授業カードを作成してきた。その中で、どのような教材を児童・生徒の自宅に持ち込むのか、大きい教材は何に代替えるのか等、教材教具の準備にも役立ち、引継ぐことができるように取り組んできた。

今年度は、国語・数学(算数)の授業にスポットを当て、指導方法、教材の扱い方等を共通理解できるよう、在宅訪問部教員が1人1枚の「絵本&活動カード」を作成し、意見交換を行った。児童・生徒の実態、授業のねらいを達成するための指導の手立て、自宅のベッドサイドで制約がある中での教材の工夫についての話が出された。また、過去の「絵本&活動カード」を見て参考になった等の話もあった。

(2) 訪問授業での国語・数学(算数)指導の交流

①小学部 自立活動を主とする教育課程 絵本『にじいろのさかな』

過去の「絵本&活動カード」を見て、相手とのやりとりを大事にしたいと考えていたので、その点を参考にした。児童が“にじうお”役、教員が他の魚役になり、うろこのやりとりを行った。児童にとってやりとりをする経験が今まで少なかったこともあり、相手から受け取る姿勢が弱いと感じられた。今後、複数の教員で訪問した際、またスクーリングで学校に登校した際、友達とやりとりできる場面を設けたい。うろこをやりとりするパネル等の教材は、持ち運びしやすく、A4サイズの袋に収納できるように作成している。

②小学部 自立活動を主とする教育課程 絵本『めっきらもっきらどおんどん』

訪問学級の同じ学年の友達と動画を共有し、読み聞かせを行った。物語の3つの場面を体験するという学習で、風を送りスズランテープをその場でちぎって風になびかせる、アルミホイールとカラーセロファンを組み合わせるなど、創作活動も盛り込み、感触を味わい、体験できるようにした。児童の可動域に限りがあるので、小さめのスケッチブック(A4の半分)を活用した。

③小学部 自立活動を主とする教育課程 絵本『めっきらもっきらどおんどん』

読み聞かせでは、ミニ紙芝居と動画を使った。ミニ紙芝居は児童にとって、視線を向けやすい大きさで、好んで見ていた。動画は効果音が入っており、物語の雰囲気を感じられた。手でつかむことが得意な児童だったので、「おもちのなる木」からおもちを一つずつつかみ取る活動を設定した。また「お宝まんちん」の場面では、部屋を暗くし、光るおもちゃを目で追ったり自分でスイッチを押して光りをつける・消したりする活動を楽しんでいる様子が見られた。過去に作成された「絵本&活動カード」を見て、どのような授業を行うかを参考にしながら進めていった。

④中学部 自立活動を主とする教育課程 絵本『ろくべえまってるよ』

中学部のA1グループの授業で扱ったスライドを動画にし、読み聞かせを行った。絵本のおおまかなストーリーがわかり、効果音や歌なども入っている動画で、体調によって目

を閉じてしまうことがある生徒だが、読み聞かせの時は、覚醒して動画に目を向けていた。三つの場面の活動では、スイッチを押すとドライヤーの風で風船が飛ぶ様子に目を向けたり、教員と一緒にひもを引っ張って重さを体感できるよう、かごに入った犬「ろくべえ」と「クッキー」を助けたりする活動が良かった。

⑤ 中学部 自立活動を主とする教育課程 絵本『ろくべえまってるよ』

「ろくべえ」が穴に落ちるところを生徒の視野内で見ることができるよう、2リットルサイズのペットボトルを活用して教材を作成した。ペットボトルの前面を切られており、「ろくべえ」が穴に落ちるところを見て、どこに「ろくべえ」がいるかを触れて確認することができた。

「ろくべえ」を助ける時には、掛け声に合わせて一緒に紐を引っ張り、見ながら活動することができた。また、「ろくべえ」が穴に落ちて困っていることを想像しやすいよう、動画で悲しそうな犬の鳴き声を聞いた。生徒宅で飼っている犬も反応するなど、室内が物語の舞台のように感じられた。

⑥ 中学部 自立活動を主とする教育課程 絵本『ジャックと豆の木』

生徒の視野に入る大きさの絵本を作り、読み聞かせを行った。生徒も自分の絵本という気持ちをもって、肩を動かしたり口を動かしたりするなどしながら楽しそうに読み聞かせを聞いていた。授業では「豆をもらう」「金貨とたまごを交換する」等、相手と物やりとりすることを意識した。訪問授業では、やりとりする相手が教員のみになってしまうので、複数訪問が可能な時に、担任以外の教員に声色を変えてもらい、パペット人形とやりとりするようにした。生徒は驚いた表情をしていたが、慣れてくると豆の数を一緒に数えることができた。豆の木が伸びる様子がわかるよう、生徒の視野に入るよう教員が斜めに持ち、主人公のペープサートが登る、降りる様子を目の前で見られるようにした。豆の木は、過去の「絵本・活動カード」を見参考にさせてもらい、ベッドサイドで扱いやすい小型サイズで作成した。

(3) 「絵本&活動カード」の作成にあたって

訪問学級では、各担任がそれぞれの授業を計画し、担任を中心に一人、または複数で訪問する形で授業を行っている。国語・数学（算数）については、昨年度までに作成された「絵本&活動カード」を参考にして、訪問学級の児童・生徒の国語・数学の授業づくりを行っている教員もいた。“授業全体の流れや内容を参考にした”“ねらいを見て参考にした”“教材が参考になった”という感想が出された。

今年度「絵本&活動カード」を作成して共通していたことは、教材の大きさに配慮し、教材を提示する時に視野に入るサイズであること、ベッドサイドで扱いやすいように工夫されていることだった。授業内容については、個々の児童・生徒のねらいに合わせた内容であり、通学生の学習グループで使われていた動画を編集して活用するケースがあり、スクリーニングで参加する授業と連携していくことも大切だと確認することができた。

(4) 考察

本校の在宅訪問部では、普段から複数訪問を行い、複数の教員の目で児童・生徒の様子を見る体制ができています。そのため、どのような授業を行っているかがおおよそ分かっていたり、児童・生徒の授業での様子を想像したりすることができます。今回「絵本&活動カード」を作成し、教員6名で交流したことで、どのようなねらいをもって授業を行っていたか、なぜその教材を使っているのか等を各担任から聞くことができ、指導のねらいや指導方法、児童・生徒のことを共通理解することにもつながりました。このように定期的に授業について話し合う機会を設けることで、教材の紹介や工夫のみならず、課題となっている「引き継ぎ」にもつながると思われる。

(5) まとめ

訪問学級は、重度重複障害の児童・生徒が多く、それぞれに合わせた教材・教具の工夫は不可欠である。また、持ち運びしやすくベッドサイドで扱うことを考えると、大きさに配慮する必要がある。そして、授業を行う教員が児童・生徒の実態把握、指導内容、ねらいを共有して授業を進めていくことが大切であることが再確認された。

次年度以降も、共通理解につながる授業カード等の作成をし、児童・生徒や授業の様子を交流したり話し合ったりする時間を意識的に設け、積み重ねることが有効であると考えます。

5 病弱教育部門の研究

(1) 研究テーマについて

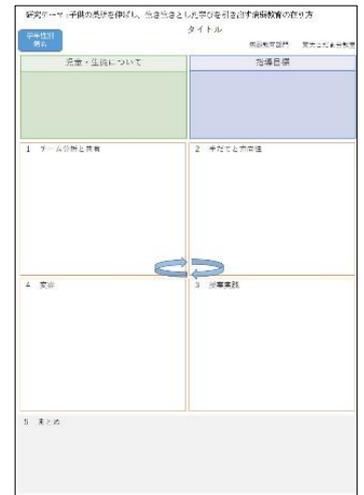
学習の時間や環境に制限のある入院中の病弱児に対する指導の工夫は、「足りないものやできないことを補う」という発想になりがちである。もちろんそれも学習を進める上で必要なことであるが、現在の環境下でどのようにすれば子供たちが生き生きと学ぶことができるのかという視点も大切である。個別指導であることを病弱教育の強みと捉えた時、どうすれば「個別最適な学び」を提供できるのか、研究を進めることにした。入院中である子供たちの学習環境をポジティブに捉え、手掛かりにするのは子供の長所である。ここから以下のテーマが生まれた。

～ 子供の長所を手掛かりに、生き生きとした学びを引き出す病弱教育の在り方 ～

今年度は現テーマでの三か年のまとめの年として二つの目標を定めた。

- ① 病弱教育部門の教職員の一人一人が取り組む研究
- ② 全国研究会で発表することで、外部に発信し、内部に還元することができる研究

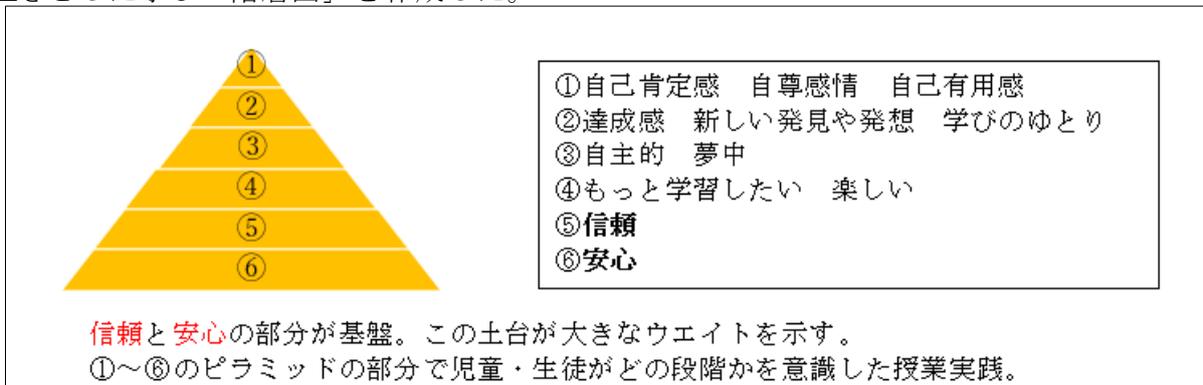
この目標を実現するために、一人1枚の研究ポスター(図1)の作成を行うこととした。



(2) 研究の流れ

(図1) 研究ポスターのテンプレート

これまでの授業研究会において、東洋大学文学部教授 谷口明子先生から御指導をいただき、「生き生きとした学び」について本校病弱教育部門ならではの位置付けをし、以下の「生き生きとした学びの階層図」を作成した。



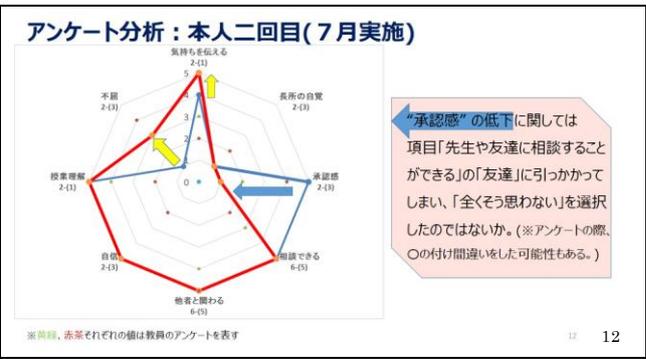
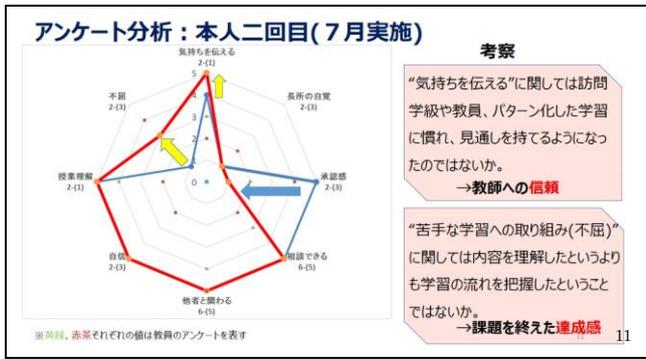
(図2) 生き生きとした学びの階層図

今年度は、昨年までの研究の進め方を踏襲して、児童・生徒へのアンケートを実施し、チーム分析を行い、生き生きとした学びを引き出す授業実践を行った。中間報告では、進捗状況を報告し、谷口先生から御助言をいただき、2学期3学期の研究の方向性を定めた。2学期からは、授業実践も改良が重ねられ、アンケートの2回目の実施もでき、チーム分析がより一層深められた。2学期後半からは1人1枚の研究ポスターの作成も始まった。東大こだま分教室病院訪問部がそれぞれで研究会を開き、意見交換を行いながら研究ポスターを仕上げていった。

(3) 実践報告

① 病院訪問学級 小学部 5年生

<h2 style="text-align: center;">訪問学級 小学部</h2> <p style="text-align: center;">～知的支援学級(固定級)の児童への学習指導について～</p> <p style="text-align: right;">1</p>	<h3>児童の実態</h3> <ul style="list-style-type: none"> ・小5男子。 ・2年前から通院をしている。 ・ADHD傾向がみられる。 ・語彙が乏しく、思ったことを伝えられないため、トラブルになることも多い。 ・人とのコミュニケーションが上手に取れない。 ・刺激に弱くその場の状況に左右されることがある。 <p style="text-align: right;">2</p>
<h3>アンケート分析：本人一回目(5月実施)</h3>  <p>分析内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【長所の自覚】、【不屈】を除いては教員のアンケートよりも全体的に高い傾向にある。 <p>当時の実態</p> <ul style="list-style-type: none"> ・与えられた課題が難しくても嫌がらず、一生懸命取り組む。 ・口数が少ない。 ・無表情。 <p>※黄緑、赤茶それぞれの値は教員のアンケートを表す</p> <p style="text-align: right;">3</p>	<h3>アンケートによるチーム分析</h3> <p>アンケートから分かる本人の強み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周りの人に自分の気持ちを伝えることや困ったときに相談ができる。 ・自信をもって色々なことに取り組める。 <p>教員から見た児童の強み</p> <ul style="list-style-type: none"> 与えられた課題は、難しくても最後まで一生懸命取り組む。 <p style="text-align: center;">↓ スレ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・口数が少ないため、周りの人に自分の気持ちを伝えたり、相談したりすることがよくできているとは思わなかった。 ・苦手な勉強にも取り組むことができているという自覚が、本人にはなかった。 <p style="text-align: right;">4</p>
<h3>「生き生きとした学びの階層図【改良版】</h3>  <ol style="list-style-type: none"> 自己肯定感 自尊感情 自己有用感 達成感 新しい発見や発想 学びのゆとり 自主的 夢中 もっと学習したい 楽しい 信頼 安心 <p>信頼と安心の部分が基盤。この土台が大きくなりエイトを示す。 ①～⑥のピラミッドの部分で児童がどの段階かを意識した授業実践。</p> <p style="text-align: right;">5</p>	<h3>指導目標</h3> <ul style="list-style-type: none"> ・生活上の目標を達成したり課題を解決したりするために、 自立的な生活に必要な事柄を繰り返し学んで定着する。 ・穏やかな気持ちで学習活動に取り組む。 ・自分の気持ちや状況を、言葉で周囲の大人や友達に伝える。 <p style="text-align: right;">6</p>
<h3>手立てと方向性</h3> <p>＜国語＞ 日常生活で使用する身の回りの漢字や片仮名、平仮名の読み書きを練習する。</p> <p>＜算数＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個数を正しく数えたり、書き表したりする学習をする。 ・簡単なたし算やひき算の練習をする。 ・長い・短い、重い・軽い、高い・低い、広い・狭いなどの用語を理解する。生活に必要な知識を身に付ける。 <p>＜図工＞ 本人が興味を持って取り組めるような、工作を選んで提示し、創作をする。</p> <p style="text-align: right;">7</p>	<h3>授業実践</h3> <p>【国語】三ひきの子ぶた</p> <p>ただ物語を音読するだけでなく、 教師と自分の役を決めて、劇遊びに取り組んだ。</p> <p>紙コップで子ぶたの人形を作り、動かしながら、教員と交互にセリフを大きな声で読むことができた。</p> <p>成果と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員と一緒に活動ができた。 ・想像力を膨らませて何かを作ったり、自分でセリフを考えたりすることができると、今後の人間関係作りを生かすことができると考える。 <p style="text-align: right;">8</p>
<p>好きなキャラクターの下書きを教員に描いてもらい、 絵を丁寧に色塗りをした。細かい部分に気を付けながら、 はさみで切り取った。完成したお面を頭に被っても前が見えるように、目のところに穴を開けるなど、工夫していた。</p> <p style="text-align: center;">お面を被った 児童の写真</p> <p>成果と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集中して創作ができた。 ・何に取り組もうとしてもまず第一声「先生やって。」から始まるが、誰かと一緒に何かをするという経験が乏しいためか、一緒に取り組むことに喜びを感じている。 →教員と協力して完成させることによって、教員との関わりを増やすことができた。 <p style="text-align: right;">9</p>	<h3>アンケート分析：本人二回目(7月実施)</h3>  <p>分析内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 【気持ちを伝える】、【不屈】のポイントが高くなり、【承認感】が大幅に下がった。 <p>実態の変容</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習の中で疑問に思ったことを質問したり、自分の気持ちを伝えたりするようになった。 <p>※黄緑、赤茶それぞれの値は教員のアンケートを表す</p> <p style="text-align: right;">10</p>



授業を通して (復学支援への活用方法)

学習という場面で大人と関わる場面を増やすことができた。

生き生きとした学びを引き出すには・・・

- ✓自分の長所に気付く
- ✓自己肯定感を上げる
- ✓人とのコミュニケーションを円滑に行うことができるようにする

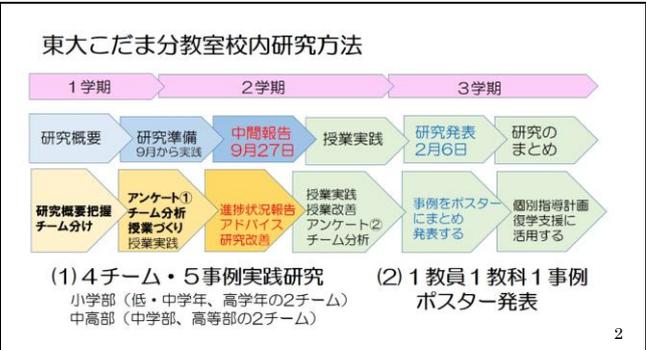
13

② 東大こだま分教室 中学部 1 年生

東大こだま分教室 校内研究中間報告

「子供の長所を伸ばし、
生き生きとした学びを引き出す
病弱教育の在り方」

～中学部 1 年生の事例より～



東大こだま分教室校内研究中間報告

中学部1年生の事例報告

(1) 生徒の実態
(2) チーム分析と共有
(3) 指導目標
(4) 手だてと方向性

生徒の実態

- ・ 中学部 1 年女子
- ・ 入院期間：約10か月(R6年5月～3月) ※転入は6月初旬
- ・ 悪性新生物

【保護者面談からの情報】

- ・ 地元では7名グループの友人関係、親子関係も良好
- ・ 勉強は苦手
- ・ 陸上部を希望して、地元でも大規模の中学校へ入学

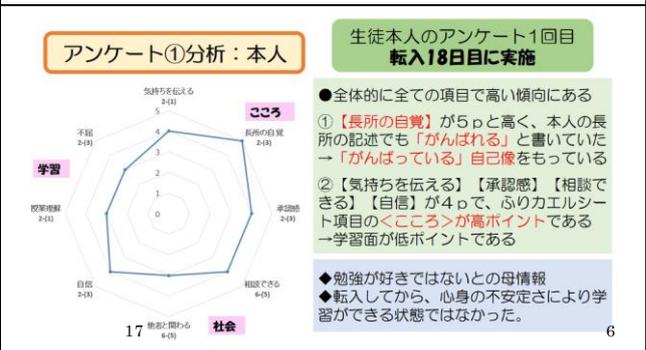
① **新しい環境が苦手で中学校入学時に強い不安を示す** (不登校気味になった)

【転入後の状態】

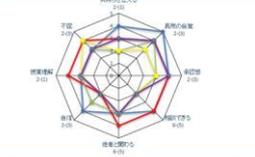
- ② 薬の副作用が強く出て、**メンタルが不安定** (すぐに泣くあるいは泣き叫ぶ)
- ③ 足腰・手の痛みで**自力での立位・歩行ができなくなる** (機能面に問題なし)
- ④ **母子分離に課題がある** (本人の状況が母に強い影響。本人も依存度が高い)

生徒への対応

- ① 新しい環境が苦手で強い不安感をもつ
→ 担任との関係づくりを行い、担任がつなぎ役となる
- ② 薬の副作用でメンタルが不安定
→ 医療との連携で服薬期間と減薬期間を把握と情報交換
→ 服薬に対する不安感を軽減させる言葉かけ
- ③ 痛みの訴えにより自力での立位・歩行が不可能
→ 医療や保護者との連携でリハビリテーションの時間を確保
→ 今できることを積み上げ、がんばりに対する励ましの言葉かけ
- ④ 母子分離に課題
→ 毎日母に情報を伝え、分教室に安心感がもてる信頼関係の構築



アンケート分析：教員



教員のアンケート1回目 転入三週間に実施

- 全体的に全ての項目で低い傾向にある
- ①本人は【長所の自覚】が5pと高いが、教員は3、4pと考えている
- ②本人は【気持ちを伝える】【相談できる】【自信】が4pと高ポイントだが、複数の教員と2p以上離れている項目である
- ③教員は全体的に低ポイントである→ズレ

P	本人	教員1	教員2	教員3	教員4	教員5
5	1					4
4	4	6	1	1	2	3
3	3		5	4	4	1
2		1	2	3	1	
1						

＜当時の実態＞
 ◆体の痛みの訴えが多く、すぐに泣くなどメンタルの不安定な状態
 ◆転入してから、治療や体調の不調により、学習は一日1～4コマ、1回10分～30分程度の実施でトータルとして少ない

生徒について

- アンケートからの長所・強み>
- ①自分の長所を自覚している
 - ②自信をもっている
 - ③自分の気持ちを伝えられており、自分のことをわかってもらえており、相談できるという状況にある

＜本人と教員とのズレ＞

- ①「がんばれる」自己像をもっていると思わなかった
- ②自信があるとは思わなかった
- ③気持ちを話してくれていたり相談できたりしているとは思わなかった

- ＜教員からみた長所・強み＞
- ①素直に話を受け止め、行動に移せる
 - ②慎重な面がある

本人と教員との「実感」の不一致

関わりと変容・課題

◎毎朝担任との振り返りと見直し
一動ましの言葉かけ
 →前日のがんばりを視覚化(時間割に丸印とシール)
 →当日の見直しと目標を確認

●●さんの時間割 6月10日～14日

	月	火	水	木	金
1	社会	道徳	社会	英語	理科
2	数学	英語	家庭	国語	総合
3	理科	社会	英語	社会	英語
4	技術	数学	理科	音楽	国語
5	英語	美術	国語	特活	自立
6					保健

「がんばりを自覚」
 今朝は、もう寝が飲めるね！毎日、リハビリもがんばってるね

「がんばりを投資」
 昨日は4時間授業ができたね！6時間まで授業されたね！！

「理由を明示」
 火曜は、治療が入ったから1時間だったのは仕方ないよね

「見直しと小さな目標」
 今日、音楽があるね先週受けられなかったから今日は音楽をがんばるのどうかな？

「自己選択 自己決定」
 音楽、何時間目？4時間目か？がんばろうかな

関わりと変容・課題

- ＜変容＞
- ①新しい環境が苦手
 →環境に慣れてよく話す
 →授業への積極的な参加
 - ②薬の副作用による不安定さ(→服薬がなくなり安定)
 →笑顔が多く見られる
 - ③自力での立位・歩行が不可能(→リハビリの効果で歩行可能)
 →痛みの訴えがなくなった
 →45分授業の実施が可能！
 - ④母子分離に課題
 →母の「子離れ」発言あり

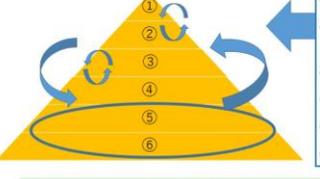
- ＜課題＞
- 痛みの訴えや不安定さに対応
 →短時間の授業(15分程度)
 - 本人のわかる、できる範囲の学習内容
 →授業の遅れあり
 - 期末試験の実施なし
 →評価材料の不足

関わりと変容・課題

- ＜変容＞
- ①新しい環境が苦手
 →環境に慣れてよく話す
 →授業への積極的な参加
 - ②薬の副作用による不安定さ(→服薬がなくなり安定)
 →笑顔が多く見られる
 - ③自力での立位・歩行が不可能(→リハビリの効果で歩行可能)
 →痛みの訴えがなくなった
 →45分授業の実施が可能！
 - ④母子分離に課題
 →母の「子離れ」発言あり

- ＜課題＞
- 痛みの訴えや不安定さに対応
 →短時間の授業(15分程度)
 - 本人のわかる、できる範囲の学習内容
 →授業の遅れあり
 - 期末試験の実施なし
 →評価材料の不足

生き生きとした学びの階層図【改良版】



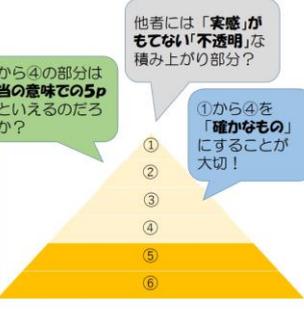
「信頼と安心」の部分が基盤。この土台が大きくなると示す」という昨年度の研究実績を受け、1学期の生徒との関わりで、⑤信頼と⑥安心の基盤ができた状態ができたことが、2回目のアンケート結果ではないかと分析

教員のチーム分析

＜本人と教員とのズレ＞

「確かな」自信がもてるのが「本物の力」なのではないか？

→本人と教員双方の「実感」が伴い、「根拠」がある「確かな自信」を育む必要がある！



本人の「ねがい」と現状

＜本人のねがい＞
 「退院して2年生に戻った時に、遅れないようにしたい」

＜保護者のねがい＞
 「地元校に戻った時に勉強についていけるようにしてほしい」

＜現状＞

- ①一学期の学習の遅れがかなりある
- ②期末考査の実施がないため、客観的な理解度は不明
- ③手を伸ばせば「わかる・できる」範囲での学習を行っていた

勉強が楽しい！

指導目標

- ①小さな目標を自分で設定し、自ら新しいことに挑戦することができる
 - ②どんなこともはっきりと大きな声で、自分の気持ちや考えを伝えることができる
- 退院後、地元校に戻った時の本人と保護者の「ねがい」がかなうための「手だてと方向性」を設定し、入院中に分教室で「必要な力」をつける →病弱教育の在り方

手だてと方向性

- ①小さな目標を自分で設定し、自ら新しいことに挑戦することができる
- ＜手立て＞活動に見直しをもたせ、教員と相談しながら段階的に現状より少し高い目標を自己設定する。振り返りの機会を設け、評価を視覚化しながら目標達成を目指すようにする。
- ②どんなこともはっきりと大きな声で、自分の気持ちや考えを伝えることができる
- ＜手立て＞困った時や分からない時に小声になることを指摘し、客観的に自己を見つめられるようにする。安心感のある状況と関係性の中で、のびやかに発言できるようにする。
- ＜方向性＞
 退院後に必要となる力を、本生徒の長所である素直さや慎重さを伸ばしながら、院内学級という安心できる状況と信頼ある関係性の中で育む。

<研究テーマ>子供の長所を伸ばし、生き生きとした学びを引き出す病弱教育の在り方

生徒の長所：「がんばれ」自己像をもっている
ポジティブ思考である
素直に受け止めて行動に移せる

ねがい：退院後に学習の遅れがないようにしたい

現状：すでに学習の遅れが顕著である
新しいことへの不安感が高い（自信のなさで小声になる）

長所を伸ばし、生き生きとした学びを引き出すための手立て

- 「がんばり」を視覚化することで意欲を高める
- 自分で小さな目標を立てて取り組むことで達成感を味わう

17

生き生きとした学びの階層図【改良版】

①自己肯定感 自尊感情 自己有用感
②達成感 新しい発見や発想 学びのゆとり
③自主的 夢中
④もっと学習したい 楽しい
⑤信頼
⑥安心

●「信頼と安心の部分が基盤。この土台が大きなウエイトを示す」という昨年度の研究実績を受け、1学期の生徒との関わりで、⑤信頼と⑥安心の基盤ができた →ここからがスタート！

●2学期に授業実践と授業改善を通して「自主的に学習に向かう意欲」を引き出す病弱教育の在り方を追求していく！

18

二期からの英語の取組

19

小学部の進捗状況報告

(1)低・中学年チーム
①2年生児童
②4年生児童

(2)高学年チーム
③5年生児童

20

(4) 考察

① 病院訪問学級 小学部5年生

小学部5年生の事例は、小学校の特別支援学級に在籍する児童の事例である。特別支援学級に在籍している児童・生徒は、病院訪問学級でも増加傾向にある。この児童は、人とのコミュニケーションがうまく取れなかったり、思ったことを言葉でうまく伝えられなかったりする実態がある。アンケートを2回実施し分析をチームで行ったことにより、学習に慣れ見通しをもてたことにより、教員への信頼につながった。また、児童は、学習の流れが把握でき、達成感が得られた。ただ、病棟での友人関係などが影響したのか、アンケートの承認感の評価が低くなる項目もあった。訪問学級では1対1の個別指導であり、友人関係が見えにくいこともある。教職員に相談できる環境をどう授業内で設定していくかが課題である。この課題に対応していくことで、さらなる生き生きとした学びにつながると考える。

② 東大こだま分教室 中学部1年生

中学部1年生の事例では、1学期に安心と信頼の基盤ができた。「信頼と安心の部分が基、この土台が大きなウエイトを示す」という昨年度の研究実績を受け、2学期から授業実践と授業改善を行った。本生徒は2学期には、毎日登校し、一時退院中もオンライン授業を笑顔で楽しく受ける様子が見られた。また、様々な行事や集団活動にも意欲的に参加し、自ら積極的に発言することが多くなり、分教室内で生き生きとした学びができた。これは、本研究で教員集団がチームとなってアンケートを基に生徒理解を深め、共通の指導目標に向かって手だてや方向性を確認しながら授業設定・授業改善を行ったことによる本研究での取組の成果といえよう。

(5) おわりに

病院訪問部での研究活動は、担任が中心となり、児童・生徒にアンケート実施を行った後に、アンケート分析を行い、目標や手立てを共有しながら、授業実践を重ねてきた。月に一回の研究会だけでなく、毎週の学部会や担任会においても、児童・生徒一人一人のケースについて、

話し合いながら進めてきた。また、児童・生徒一人一人の授業記録を毎回取っていくことが、研究活動にも繋がったと考えられる。

また昨年度、東洋大学教授 谷口明子先生の助言を基に「生き生きとした学びの階層図」を病弱教育部門内で作成した。この階層図を考えることで、目標や手立てがチームで共有しやすくなり、今年度の研究活動にも大いに役立った。病院訪問部では、在籍の約半数が児童精神科に入院している児童・生徒である。心の問題を抱える児童・生徒が多く、改めて、階層図の「信頼」「安心」の部分が大きなウエイトを占め、この基盤を大事にした指導が大切であることを感じた。

東大こだま分教室の研究活動は、チームを組んで話し合いを重ねたり、月に1度の分教室内研究会で学部を超えて多様なケースについて意見交換を行ったりした。意見交換は、全ての児童・生徒に実施したアンケート結果を使用して、チームごとに行われた。その過程で教員間の異なる見立てが共有され、一人一人の児童・生徒理解をより深め、自分自身の授業改善に向かうヒントを得ることに繋がった。これは東大こだま分教室における研究活動の成果の一つだと考える。

なお、アンケートについては、児童・生徒の心理状態や項目の捉え方が結果に大きく影響する。アンケート結果が変化した原因は、本研究で講じた手だての成果なのか、単に心理状態が良い時期だったからなのか、慎重に分析する必要があることは理解しておきたい。東大こだま分教室では、そのことを踏まえて、アンケートは児童・生徒理解に有効なツールで、手だてや方向性を考える一つとして活用してきた。

3年間に及んだ本研究は今年度にまとめの年となった。教員一人1枚の研究ポスター作成と全国公開授業研究会でのポスターセッションにより、各教員が生き生きとした学びを引き出すことをより真剣に考えて実践することができた。この経験を、これから出会う児童・生徒に還元していきたい。

6 研究を終えて

全国公開授業研究会を開催するにあたり令和4年度からの研究を改めて見返してみると、実践研究を進める中で研究テーマの変更がありました。テーマを変更する過程においては、教員が目の前にいる児童・生徒の将来の姿を想像しながら、よりよい実践にするには何が必要か、何ができるか、何度も検討を重ねたことと思います。研究結果として不十分な部分はあったかもしれませんが、児童・生徒のために学校全体で意見を出し合えたことは、学校として有意義な時間となりました。様々な障害の程度の児童・生徒の将来が、少しでも豊かなものとなるよう、今後も教員同士で意見を交わしながら実践を積み重ねてまいります。

御指導・御助言をいただきました助言者の皆様、御参会いただきました皆様に感謝申し上げます。今後とも御支援のほど、何卒よろしくお願いいたします。

副校長 神田 実季

7 参考文献

【肢体不自由教育部門】

- 青山由紀（2013）古典が好きになる—まんがで見る青山由紀の授業アイデア 10. 光村図書出版.
- 青山由紀（2010）光村の国語はじめて出会う古典作品集 5 古事記・風土記・今昔物語集・宇治拾遺物語・十訓抄・沙石集・御伽草子・伊曾保物語. 光村教育図書.
- 親子読書地域文庫全国連絡会（編集）（2015）親地連がすすめる読みきかせ絵本 250 高学年向 2004~2014. 絵本塾出版.
- 親子読書地域文庫全国連絡会（編集）（2013）おやちれんがすすめるよみきかせ絵本 250 低学年向 2003~2012. 絵本塾出版.
- 柿田友広（監修）（2013）絵本屋さんがおすすめする絵本 100. マイルスタッフ(インプレス).
- 勝又 基（編集）（2019）古典は本当に必要なのか、否定論者と議論して本気で考えてみた。 . 文学通信.
- 金柿秀幸（2004）幸せの絵本 ~大人も子供もハッピーにしてくれる絵本 100 選~. ソフトバンククリエイティブ.
- 窪菌晴夫（2017）オノマトペの謎 ピカチュウからモフモフまで. 岩波書店.
- クレヨンハウス（2008）クレヨンハウス 絵本スクール—大事なことをぜーんぶ「学べる」絵本ガイド. クレヨンハウス.
- 「この本読んで!」編集部（編集）（2009）テーマ別ガイド子供と読みたい!新しい絵本 1000. NPO 読書サポート.
- 「この本読んで!」編集部（編集）（2013）テーマ別ガイド子供と読みたい!新しい絵本 1000 Part2. NPO 読書サポート.
- 佐々木宏子（2000）絵本の心理学—子供の心を理解するために. 新曜社.
- 瀧薫（2018）保育と絵本—発達の道すじにそった絵本の選び方. エイデル研究所.
- 田近洵一（2014）文学の教材研究—“読み”のおもしろさを掘り起こす. 教育出版.
- 田中実・須貝千里（編）（2001）文学の力×教材の力 理論編. 教育出版.
- 東京子供図書館（編著）（2018）よみきかせのきほん—保育園・幼稚園・学校での実践ガイド (TCLブックレット). 東京子供図書館.
- 徳永豊（編著）（2014）障害の重い子供の目標設定ガイド: 授業における「学習到達度チェックリスト」の活用. 慶應義塾大学出版会.
- 徳永豊（2021）障害の重い子供の目標設定ガイド 第2版:授業における「Sスケール」の活用. 慶應義塾出版会.
- 徳永豊・田中信利（編著）（2019）障害の重い子供の発達理解ガイド:教科指導のための「段階意義の系統図」の活用. 慶應義塾大学出版会.
- 二瓶弘行（2013）二瓶弘行の「物語授業づくり 入門編」—「一日講座」シリーズ〈4〉. 文溪堂.
- 日本子供の本研究会「障害と本」の研究部会（2017~2021）障害に関することを描いた子供の本のリスト No.29~33. 障害と本の研究会.
- 樋口正春・仲本美央（編著）（2017）絵本から広がる遊びの世界 読みあう絵本（これからの保育シリーズ）. 風鳴舎.
- 広瀬友紀（2017）ちいさい言語学者の冒険 子供に学ぶことばの秘密. 岩波書店.
- 本と子供の発達を考える会（2019）読み聞かせで発達支援 絵本でひらく心とことば. かがわ出版.
- 松岡享子（2017）えほんのせかい こどものせかい. 文春文庫.
- 松岡享子（2015）子供と本. 岩波書店.
- 守屋慶子（1994）子供とファンタジー—絵本による子供の「自己」の発見. 新曜社.

山元薫・笹原雄介（2020）知的障害のある子供のための国語、算数・数学 「ラーニングマップ」から学びを創り出そう。ジアース教育新社.

【病弱教育部門】

全国特別支援学校病弱教育校長会・独立行政法人国立特別支援教育総合研究所（2010）
「病気の子供の理解のために」（2020年1月25日時点

<https://www.nise.go.jp/portal/elearn/shiryoku/byoujyaku/supportbooklet.html>)

全国特別支援学校病弱教育校長会編著（2020）特別支援学校学習指導要領等を踏まえた病気の子供のための教育必携。ジアース教育新社.

文部省初等中等教育局（1994）「病気療養児の教育について」（通知）文初特 294 号

文部科学省初等中等教育局特別支援教育課（2013）「病気療養児に対する教育の充実について」（通知）24 初特支第 20 号

文部科学省初等中等教育局特別支援教育課（2015）「長期入院児童生徒に対する教育支援に関する実態調査の結果」

